



## (2) 一発不合格となる用途条件・法違反を防止する

表1は、新試験制度となったH21からR4までの合格率等である。合格ランクⅠは、H30までは40%であったが、R1から35%と、5%も厳しくなった。また、R1からは、ランクⅢとランクⅣの比率が約6割と大きく変わった。研究会では、R1から採点方式、特に**法違反**は一発不合格へと変更になったと推定している。

R6に合格するには、**用途条件**を守ることが基本条件であるが、更に**法違反しない**図面を書き上げることが必須事項と推定する。R1から「受験者の答案の解答状況」として「法令への重大な不適合」が示された(下記参照)。この点は、R2以降も継続して示されている。1級建築士になるには最低限として法令を守らなければいけない、法違反する図面は合格させないという試験元の意図が明確になっていると推定する。

従来は、作図量が合否に直結すると言われていたが、現在は、特に法違反しない図面を書き上げる、その学習に時間を割くべきであり、単なる作図の多さでは合格できないと判断した方がよい。

表1 製図試験の合格率

年度	受験者数	合格		不合格	
		ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ	ランクⅣ
平成21年	12,545人	41.2%(5,164人)	25.8%	23.0%	10.0%
平成22年	10,705人	41.8%(4,476人)	27.8%	23.5%	6.9%
平成23年	11,202人	40.7%(4,560人)	30.5%	18.1%	10.7%
平成24年	10,242人	41.7%(4,276人)	27.9%	18.2%	12.2%
平成25年	9,830人	40.8%(4,014人)	27.3%	19.2%	12.7%
平成26年	9,460人	40.5%(3,825人)	32.7%	20.5%	6.3%
平成27年	9,308人	40.5%(3,774人)	25.2%	23.3%	11.0%
平成28年	8,653人	42.4%(3,673人)	27.1%	20.7%	9.7%
平成29年	8,931人	37.7%(3,365人)	21.2%	29.9%	11.2%
平成30年	9,251人	41.4%(3,827人)	16.3%	16.5%	25.9%
令和元年	10,151人	35.2%(3,571人)	4.3%	30.8%	29.7%
令和2年	11,031人	34.4%(3,796人)	5.6%	24.3%	35.7%
令和3年	10,499人	35.9%(3,765人)	6.3%	26.9%	30.9%
令和4年	10,509人	33.0%(3,473人)	6.1%	32.4%	28.5%

ランクⅠ：知識及び技能を有するもの(合格)

ランクⅡ：知識及び技能が不足しているもの(不合格)

ランクⅢ：知識及び技能が著しく不足しているもの(不合格)

ランクⅣ：設計条件・要求図面等に対する重大な不合格に該当するもの(不合格)

**R1から審査(法違反等)が厳しくなったと推定** (以下はR1公表のランクⅢ及びⅣの内容)

センターから公表された「受験者の答案の解答状況」

ランクⅢ及びⅣに該当するものが多く、具体的には以下のようなものを挙げることができる。

- ・設計条件に関する基礎的な不適合：「要求されている室の欠落」や「要求されている主要な室等の床面積の不適合」
- ・法令への重大な不適合：「延焼のおそれのある部分の位置(延焼ライン)と防火設備の設置」、「防火区画(特に吹抜け部の1階部分の区画)」や「直通階段に至る重複区間の長さ」等
- ・そのほか建築計画に基礎的な問題があるもの：「吹抜けの計画(吹抜けと重なっていないもの)」等

※この傾向は、R2、R3、R4も続いている。

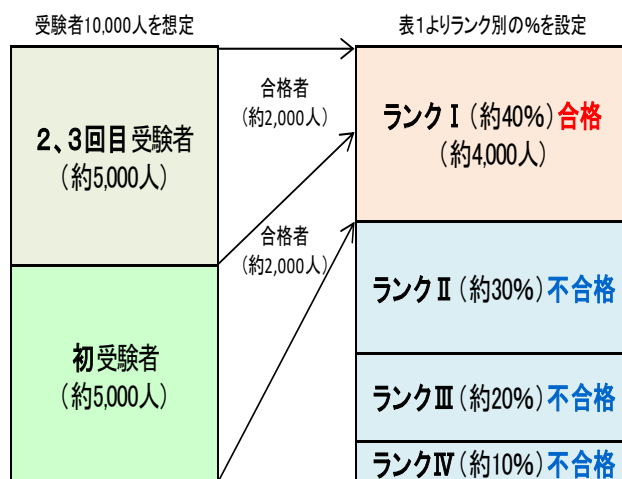


図1 受験者1万人での製図合格イメージ図(H29以前)

**R1から審査(法適合)が厳しくなったと推定**

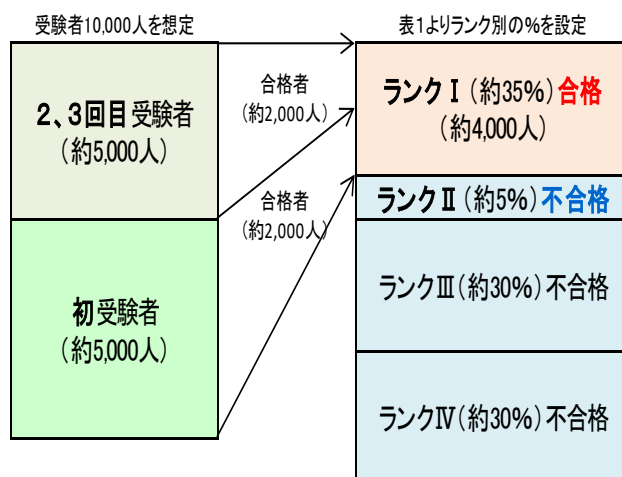


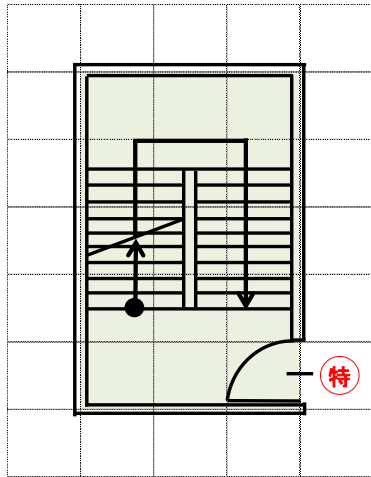
図2 受験者1万人での製図合格イメージ図(R1以降)

注) 図1は、研究会による受験者1万人とした場合の推定イメージ図ですので、参考として見て下さい。

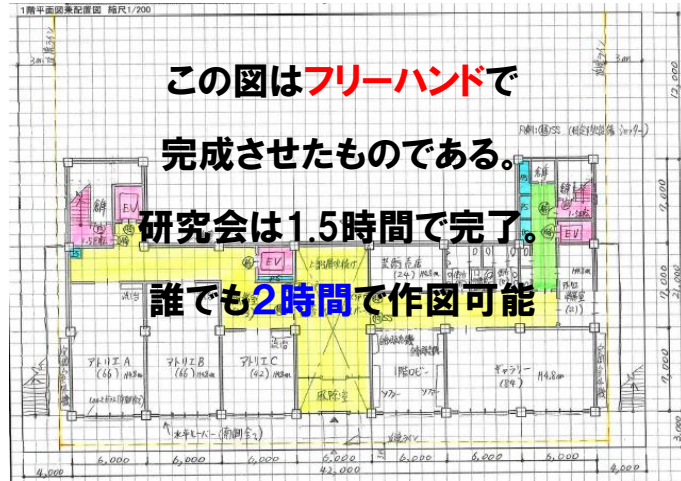
### (3) 「確定エスキス」と「フリーハンド」により2時間で完了

製図試験は、2時間でエスキスを完了させて、法違反しない図面を書き上げることが合格の第一条件となる。そのためには、試験前にある程度、自分のエスキスを確定して起き、それを試験中に多少の変更でエスキスを完了させるという「**確定エスキス**」を学習することが有力である。更に、高速に図面を仕上げするため「**フリーハンド**」を取り入れることも有力である。

下記は、確定エスキスとフリーハンドの一例である。製図試験は、時間との勝負の試験であり、受験者が「確定エスキス」や「フリーハンド」能力を持つことは、**2時間でエスキスを完了させ2時間で作図完了**させるために必要なテクニックである。



階段の確定エスキス



R5図書館のフリーハンド作図例

### (4) 研究会の「R5計画の要点等まとめ」を丸暗記

近年は法違反が注目されているが、従来は、「**計画の要点等**」が合否を決定するとも言われていた。特に、初受験者の方は、この計画の要点等の知識が殆どないことから、2年目、3年目の受験者と大きく差がでてくる。

その解決策では、研究会の「**計画の要点等まとめ**」を**丸暗記**して下さい。表2は、R5図書館の計画の要点等まとめが本試験に対して、どの程度的中したかを示した検証結果である。ほぼ全問が的中したので、研究会のまとめを丸暗記することで、この計画の要点等へかける時間が割愛できる。その結果、作図や

表2 課題(計画の要点等)の比較検証

赤字は推定できた、青字は推定できなかった

本試験の課題内容	研究会(計画の要点等まとめ)の検証結果
(1) 一般開架スペースについて、次の①、②の観点から配慮したこと ①蔵書数の確保及び書架等のユニバーサルデザイン②敷地及び周辺条件(自然採光の活用を含む)	1-1図書館のアプローチ計画、1-11一般開架スペース及び児童開架スペースの書籍の管理について考慮したこと ①蔵書数およびユニバーサルデザイン
(2) 施設の機能構成、配置・動線計画について、次の①、②の観点から配慮したこと ①一般開架スペース、児童開架スペース及び企画展示スペースにおける多世代の交流、②施設の運営管理	1-1図書館のアプローチ計画について考慮したこと、1-2ゾーニング計画について考慮したこと
(3) 一般開架スペースに採用した空調方式と、採用した理由及び配慮したこと 採用した空調方式、採用した理由及び配慮したこと	3-8設備計画のポイント(空調、換気)、3-10空調機械室(単一ダクト方式)の空調計画
(4) 屋上等に設置する設備(①太陽光パネル、②キュービクル、③設備配管取出口(はと小屋)、④空調室外機等)の配置計画において考慮したこと	予測課題およびチューブ解説で屋上設備解説(はと小屋)
(5) 省エネルギー化の実現及び再生可能エネルギーの導入によるエネルギー自立度を高めるために、建築・設備で配慮したこと(ただし、太陽光パネル、LED照明、Low-Eガラスに関する配慮は除く。)	4-2建築計画の環境負荷低減、4-3設備計画の環境負荷低減
(6) 建築物の材料や施工方法等において、二酸化炭素の排出量削減について考慮したこと	4-1環境負荷低減の二酸化炭素排出量抑制
(7) 閉架書庫の構造計画について ①一般開架スペースとの違いや構造的特徴、②それらを踏まえて考慮したこと	閉架書庫の構造計画(全体の構造計画があり、そこからある程度記述可能)